

本ハンドブックの目的

主催者が自身のイベントでリユース食器の導入を円滑に進められるよう、導入までの流れ、検討時のポイント、出店者との調整事項等を分かりやすく解説します。

はじめにーイベントでの環境配慮を「リユース食器」から

イベントでは、主催者や出店者の事業や取組をPRすると同時に、環境配慮に対する姿勢も示すことができます。環境負荷を軽視することは、主催者・イベント出店者双方のブランドイメージの低下に繋がりがねません。

イベントの環境配慮が求められる今、取り組みやすく、かつ来場者の目に留まりやすい「リユース食器」の導入から、新しいイベントの形を始めてみませんか。



2025年大阪・関西万博でもリユース食器が使われました！

1 リユース食器とはー「借りて、使って、返す」だけ

「導入が大変そう」というイメージがあるかもしれませんが、貸出事業者からレンタルすることができ、使用後は汚れたまま返却が可能です。

リユース食器の種類(例)

提供するドリンクやフードにあわせて選択できるよう様々な形・サイズが用意されています。

リユース食器の種類(例)	主な用途
角皿(S・M)	たこ焼きや焼きそば、串ものに対応
皿(M)	炒め物、カレーライス等に対応
どんぶり(M・L)	スープ、うどん等麺類、どんぶりメニュー等に対応
カップ(小・大)	ドリンク(ホット・アイスどちらも可)、ビール等のアルコール飲料、からあげなどのフードにも対応可

導入のしかた



借りる 主催者側でまとめてレンタル
使う イベント当日、飲食出店者に引き渡し、利用してもらう
返す 貸出事業者が洗浄するため、洗わずに返却可能*

* 食べ残しや串などの異物は取り除いて返却する必要があります

レンタルだけでなく、イベント当日の会場内での飲食出店者との食器のやりとりや来場者からの食器の回収とあわせてその他のごみの会場内での分別回収を行う「エコステーション」の運営を委託することもできる貸出事業者もいます。

2 リユース食器導入メリット

- ・**環境効果**
ごみ減量・CO₂削減・水使用量削減につながります。(使い捨て容器との比較)
- ・**使いやすさ**
使い捨て容器に比べて厚みがあり丈夫に作られています。
- ・**PR効果**
環境対策に具体的に取り組んでいることを示し、イベント全体のイメージアップにつながります。

3 リユース食器導入の流れ

はじめて導入する際は、飲食出店者への説明会の開催や啓発物による来場者へのはたらきかけなどを通じて、リユース食器導入の意義や利用方法についてよく理解してもらい、主催者・飲食出店者・来場者・貸出事業者それぞれが協力して運用することが重要です。



4 よくある質問

- Q** 普段使っている使い捨て容器にあうリユース食器がないときはどうすればよいですか？
A 料理の内容や量、それに応じた販売価格を調整してみてください。
- Q** リユース食器の導入費用はどのくらいかかりますか？
A レンタルのみの場合は「レンタル費用」と「送料」、エコステーションの運用を委託する場合はその「委託費用」がかかります。
- Q** イベント当日、リユース食器が足りなくなったらどうすればよいですか？
A 飲食出店者同士で融通します。普段使用している使い捨て容器をいくつか準備しておけば、販売機会の損失につながらないようにすることができます。
- Q** 会場内のごみ箱はこれまでどおりでよいですか？
A リユース食器の回収とごみの分別回収を同じ場所で行うことが重要です。

5 会場で使用可能な啓発資材

会場で使用可能な啓発資材のデータを準備しています。



【お問い合わせ先】

大阪府 環境農林水産部 循環型社会推進室 資源循環課 3R推進グループ

電話:06-6210-9566

Mail:

shigenjuncan-recycle@gbox.pref.osaka.lg.jp